

市民の主なご意見（市ホームページより）

○募集期間：令和2年10月13日～10月20日

○回答数：20件

【学校再編を望む意見】

- ・年々児童数が減少し、統合を考えるべきだと思う。子どもにとっては、集団生活の中で視野が広がり社会性が身につく、幼稚園等からの友達との関係が継続するなどのメリットがある。また、小規模校の場合、PTAの役割等、親の負担が大きくなる。
- ・小学校では、小規模だとある程度きめ細かにみてもらえるかもしれないが、中学校では、相応の学校規模で、部活や友人関係の広がりを経験してほしいと思う。小学校から中学校への進学に際して友人関係の広がりが無い現在の状況を心配している。
- ・大規模な小中学校の運営状況にも配慮していただきたい。大規模校では、児童生徒一人当たりの運動場や体育館の面積が小さく、授業や部活動に支障を来している現状がある。

【学校再編を望まない意見】

- ・山間部の学校の廃校には賛成できない。遠くの学校への通学は、子どもにとっても親にとっても不安であり負担である。
- ・地域に学校がなくなれば、地域の衰退や過疎化を一層進行させ、高齢化や空き地問題など他の問題が生じてくると思う。デメリットが計り知れない。
- ・地域に学校がなくなり、地域との連携、地域への愛着がなくなることは避けたい。
- ・大規模校や小規模校を無理に適正にする必要はない。各校の特色を生かす方法を考え、特色ある貴重な学校は残していくべきだと思う。
- ・コスト面だけで学校再編を判断することは避けてほしい。

【学校規模（学級数・学級人数）に関する意見】

- ・小学校は、児童生徒相互の交流や理解が深まりやすいという小規模ならではのよさがあり、1学年1学級でも構わない。ただし、複式学級の解消は必要である。中学校は、免許外指導が発生すると教育に支障が出るので適正規模は必要である。
- ・ウィズコロナを考慮すると、1学年1クラスでもよいと思う。
- ・小中学校ともに、1クラス30～40名で、常に担任と副担任制を導入し、「いじめ」や「学習の遅れ」に対応していただきたい（そのためには教職員の増員が不可欠）。
- ・子どもたちが落ちこぼれることなく基礎教育を習得するには、1クラス20名以内がよいと思う。

【通学距離・通学時間に関する意見】

- ・通学時間は徒歩で30分以内、距離にして2km以内が限界だと思う。重い荷物を持つての、それ以上の通学は身体的な悪影響があると思う。
- ・小学校は集団登校を基本とした距離が妥当と思う（最長でも2kmくらい）。中学校は自転車通学の距離指定を排除し、ルールを決めて柔軟に認めてはどうか。
- ・交通の不便な地域には必ずスクールバスを設置してほしい。
- ・通学距離にはこだわらなくてよいと思う。ただ、中山間地域では、通学が負担とならないよう、拠点となる送迎保育ステーション（首都圏の都市にあるような）を設置し、そこから路線バス（運賃は補助）を利用した集団登下校を行い、放課後保護者の迎えが来るまで滞在できるようにできるようにしてはどうか。送迎保育ステーションであれば、保育所や公共施設の複合化など、まちづくりと連携して進めることもできる。

【その他の意見】

- ・富山市は広く、市街地と山間地でも環境は異なるので、一律の基準で適正化を進めることには無理がある。地域ごとの実情を十分考慮して、多様性のある基準で考えてほしい。
- ・不必要な統合をして、立派な建物や施設が使われなくなってしまうことは避けてほしい。
- ・大規模校では、学校施設の容量の問題や人間関係の希薄化の問題がある。学校選択制を一部制限し、大規模校区から小規模校への入学を促してはどうか。学校選択制による選択先の集中、大規模化を防ぐ必要もある。